

静岡県の 学校図書館

学校
図書館
情報

学校図書館を起点に広がる、学びと交流 — 浜松市立蒲小学校の取組 —

学校図書館は、本を読む場所、調べる場所としてだけでなく、人と人が出会い、学びや交流が広がる場にもなります。浜松市立蒲小学校では、コミュニティ・スクールとして、グランドデザインの実現に向け、子供たちの地域愛を育む様々な活動が展開されています。

今回は、令和7年12月に行われた1年生を対象とした「お話会」を見学させていただいた時の様子をお伝えします。このお話会は、国語科の授業の発展として位置づけられたもので、子どもたちが物語の世界に親しみ、「本物に出会う時間」となるよう企画されています。

当日は、アナウンサー、ピアニスト、ダンサーの方々が語り手として、言葉や音楽、ダンスを通して、物語の魅力を伝えていました。物語の原作は、浜松市天竜区長で児童文学作家でもある仲井秀之氏の作品です。これを「お話と音楽」の構成で新たに創作した舞台は、子供たちへの特別なクリスマスプレゼントとなっていました。子供たちは、身を乗り出して聞き入り、場面を想像しながら物語の世界に浸っていました。

また、読み聞かせボランティアなどの地域の方々も来校し、準備や片付けを手伝いながら、子供たちと一緒にお話会を楽しんでいました。こうした関わりが、このお話会を子供たちの学びの場であると同時に、地域のボランティアにとっても学びの場となっていました。



国語科授業の発展として行われた1年生お話会

令和8年1月発行
発行：静岡県総合教育センター
総務企画・ICT推進課生涯学習推進班
電話：0537-24-9715
メール：sogokyouiku-soumuict@pref.shizuoka.lg.jp

蒲小学校では、26年にわたり、読み聞かせボランティア「わくわくお話会」による取組が継続して行われています。昨年より、図書室整備ボランティアの活動も定期的な取組として展開し、ボランティアの方々の温かな見守りの中、子供たちは学校生活を送っています。また、読み聞かせや図書室に関わるボランティアだけでなく、様々な学校支援ボランティアの話し合いの場としても学校図書館が活用されていると伺いました。情報が集まり、人が自然に行き交う学校図書館は、人と人、学校と地域をつなぐ機能をもつ場であり、その特性を活かした活用が行われている点が印象的です。

同校教頭の磯部真代氏は、昨秋、博報賞・文部科学大臣賞を受賞されました。受賞の対象となつたのは、これまで勤務した学校における『つながる学校～社会に開かれた学びの実現へ～』と題した実践です。博報賞は、子どもの教育に関わる優れた実践を顕彰する賞であり、コミュニティ・スクールとして学校図書館から社会に開かれた学びの実現を目指した取組が高く評価されました。

コミュニティ・スクールとして、地域とともに学び、地域愛を育む様々な取組が、日々積み重ねられています。プラットフォームとして、人が集い、学びと交流が広がっていく——学校図書館には、こんな使い方、こんな可能性もあることを感じさせる実践です。



図書室

国際子ども図書館の子ども向け読書・学習支援コンテンツ 「しらべる・まなぶ・よむ」・「調べる・学ぶ・読む」

国立国会図書館 国際子ども図書館が公開している子ども向けコンテンツ「しらべる・まなぶ・よむ」(小学生向け)と「調べる・学ぶ・読む」(中高生向け)をご存じでしょうか。どちらも、子どもたちが本や情報を通して学びを広げられるよう工夫されたWebサイトです。

小学生向けの「しらべる・まなぶ・よむ」では、調べ学習の進め方や本の探し方、読書の楽しみ方をやさしく紹介。おすすめの本や、調べものに役立つページへのリンクもあります。

中学生・高校生向けの「調べる・学ぶ・読む」では、レポートづくりや情報の整理、引用のマナーなども具体的に学べます。信頼できる情報源を見分ける力を育てる内容で、授業や総合的な探究の時間にも役立ちます。

学校図書館では、調べ学習や読書週間などの機会にこれらのサイトを紹介したり、掲示や図書館だよりでリンクを載せたりすることで、児童生徒の主体的な学びを支援できます。図書館の資料とあわせて活用すれば、学びの世界がさらに広がります。

ます。ぜひ一度のぞいてみてください。

国立国会図書館 国際子ども図書館 子ども向けコンテンツより



提供:国際子ども図書館

小学生向け

「しらべる・まなぶ・よむ」

<https://www.kodomo.go.jp/guide/kids/>



中高生向け

「調べる・学ぶ・読む」

<https://www.kodomo.go.jp/guide/ya/>



もしもの時に備えて

各地で相次ぐ地震を受け、学校の防災対策が改めて問われています。東日本大震災から15年となる3月を前に、学校図書館の地震への備えを再確認してみましょう。

多数の書架や資料がある図書館では、地震の際に「書架の転倒」や「資料の落下」といった危険が想定されます。多くの子どもたちが集う場所だからこそ、ハード面の日常点検は欠かせません。また、ソフト面の備えとして、学校の防災・避難計画を改めて確認しておくことも大切です。「地震発生時に図書館にいる児童生徒を誰がどこへ誘導するのか」など、利用実態に即した計画になっているでしょうか。

同時に、子どもたち自身が「図書館で地震が起きたらどう行動するか(書架から離れる、身を低くするなど)」を知っていることも重要です。日常の関わりの中で伝えておくことが、いざという時の落ち着いた行動につながります。

学校図書館は、学びの場であると同時に、

—学校図書館の地震対策—

子どもたちが安心できる「居場所」でもあります。今一度、身近な点検から始めてみませんか。

ポイント1 書架・什器の安全



- 背の高い書架は壁や床に固定されているか
- 棚の上段に重い資料を置きすぎていなか
- ぐらつく棚や不安定な什器はないか

ポイント2 避難動線の確保

- 通路に資料や展示物、ブックトラックがはみ出していないか
- 非常口までの動線が常に確保されているか(防火扉・防火シャッターを妨げていないか)
- 避難経路図が見やすい位置に掲示されているか

ポイント3 展示・装飾の見直し

- 落下の恐れがないか
- 高い位置に重い物を吊ったり、展示したりしていないか